

は廣義の本種分布區域の北部を占める地理的變種 *var. ellipticus* (Thunb.) Hara とみなすのが妥當と思う。しかし若しホルトノキを獨立種として扱う場合には *E. Zollingeri* K. Koch の名がよい。

コバンモチの學名は *E. japonicus* Sieb. et Zucc. で差支えなく、*E. japonicus* Sieb. は植物學的記載を伴わず裸名である。本種は雌雄異株で、花瓣は往々先端に少數の鈍齒があり、葯は縦裂するか又は先端で開口している標本もある。紀伊和泉以西中國地方から南へ臺灣中南支にまで分布し、臺灣のものは葉が狹長である。

### ○ ウチワゴケとヒトツバジュウモンジシダ北海道に産す (佐々木太一) Taichi SASAKI: Some ferns new to Hokkaido.

本州、四國、九州地方に産するウチワゴケを著者は 1948 年 4 月北海道石狩國上川郡神居村字共和にて採集した。又同じく上川郡中愛別の石垣山にも産する (笹田興一氏同年 5 月採集)。これで本道のコケシノブ科はコケシノブ、キタコガネシノブ、ウチワゴケの 3 種類となつた。

ヒトツバジュウモンジシダの産地として發表されているのは關西では丹波、近江、出雲地方、關東では相模の鷹取山 (本誌 10 卷 10 號 676 頁) であると思うが、著者は現生地である北海道天鹽國士別町字西士別の林中にて 1949 年 11 月採集した。上記のウチワゴケ及び本變種は未だ北海道より報告されていないと思われるので此處に記した。

### ○ サナギイチゴと尾張本草學 (前川文夫) Fumio MAEKAWA: Some plants named by herbarists of Owari Province.

白井光太郎博士、樹木和名考: 410 に本種は尾州猿投山か豆州サナゲ山、いずれかの産によるものとしてある。前者は愛知縣の中央より稍々西寄り尾三國境上の猿投 (サナゲ) 山 (629m) であり後者は伊豆西北端達摩山の西にある眞城 (サナギ) 山 (502m) であろう。本草圖譜にいちご一種尾州の産とあるものは本種であるからまず前者即ち猿投山に産するイチゴと尾州の本草家がつけたものであろう。福士幸次郎氏、原日本考續編 (昭 18): 165 に説くが如き猿投山の今一つ前の語源即ち古代の鐸所 (サナギド) の信仰に關連したのではよもあるまい。尾州名古屋は徳川末期に日本本草學の一中心であつたから當時の周邊の好採集地に因む命名が大分あり、本種もその一つだが、二三例をあげると、ホングウシダ (*Asplenium oligophlebium* Bak.) = 愛知縣丹羽郡犬山の東南方二の宮の本宮山 (293m)、フジシダ (*Phlopterus Maximowiczii* Hance) = 上記の北に並ぶ小富士山 (277m)、トウゴクシダ (*Dryopteris cystolepidota* C. Chr.) = 同縣東春日井郡中央線高藏寺驛の南方にある東谷山 (198m)、イナモリソウ (*Pseudopyxis depressa* Miq.) = 三重縣三重郡菰野町の稻守谷 500m 前後 (稻森山は誤り、伊藤武夫氏三重縣植物誌上: 231 による)、フクオウソウ (*Nabalus acerifolia* Nakai) = 上記の北方、朝上村福王山 (591m) などがある。東京近郊の本門寺スゲ、白子スゲ、野火止ザサ、飯能ツツジ、刈寄ウツギなども先になつてからきつと判りにぐくなくて、こんな雜錄の種になることだろう。